

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392600037		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)		
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字樋の沢25-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特定非営利活動法人が運営する当施設は平泉24年4月に世界遺産の町、平泉町に開設しています。施設では、利用者様一人ひとりに寄り添いながら、行事や毎日のレク活動、軽作業を通して、楽しく自立した生活が継続していけるように支援しています。今年新型コロナウイルスの影響で家族との面会や地域交流、外出などが殆ど出来ませんでした。が、利用者様が寂しさを募らせないように職員一同、創意工夫し、行事やレク活動に尽力してきました。また、日々の食事も、季節の物や利用者様の嗜好を考慮しながら提供させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線近くに位置し周辺に民家があり、近隣の方々から協力をいただくには良い場所にある。コロナ禍の以前は、地域交流やボランティアの受け入れなどが盛んに行われ、外出も家族や職員と一緒に出掛け、楽しめる事も多くあった。今は全くできない状況だが、法人の理念や事業所独自の目標に沿って、利用者一人一人を尊重し、想いに寄り添いながら支援している。法人の車を借り、お花見、毛越寺のあやめ、荘園ほね寺、胆沢ダム紅葉の見物など外出の機会を積極的に進め、また室内でのレクにも工夫を凝らし、スイカ割りやミニ運動会など、利用者が楽しめる企画を考え工夫しながら支援に努めている。家族との面会や外出の機会が限られている現状から、テレビ電話での面会の実現、さらにドローンで撮影した映像を楽しんでもらう等の取り組みも検討されており、事業所と法人が一体となって支援に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・ケア理念をホールなどに提示し、日々の介護の指針となるようにしている。また、毎日社是を唱和している。	社是を唱和し、法人の定めた運営及びサービス理念を玄関やホールに掲示、確認をしながら日々の支援に当たっている。事業所独自の「運営努力目標及び実施計画」を作成し、全職員が年度末に振り返りを行い、次年度に向けた努力目標と具体的な内容を作成し、理念等の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度、新型コロナウイルスの影響で、運営推進会議や避難訓練、地域との交流は電話や報告のみ、中止となっているが、地域の情報は公報などを毎月届けていただき、緊急連絡は電話などで地域の情報を共有している。	町内会に加入し、広報やお知らせなどの地域の情報を得ている。近隣の方々から野菜や花の苗を頂いたり、介護についての相談を受けており、繋がりが出来ている。コロナ禍の前は保育園、小・中学校、ボランティアの受け入れ等で地域交流も盛んに行われ、避難訓練では地域の方々10名参加を頂き、見守りや誘導にも協力を頂いていた。コロナ禍が収まった後の交流再開を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている、セミナーやケアカンファレンス等に極力参加し、情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルスの影響で文章や電話での連絡や報告になっている。利用者様の様子や活動内容については写真などを利用して報告している。	会議には利用者も参加し、地域の方々からは意見や要望が活発に出され、特に行事の際には積極的な関わりと協力を頂いていた。今年はコロナ禍のため、活動内容と利用者の様子や写真を掲載し、工夫を凝らしながら文書報告による書面開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告発信前や何かあればその都度連絡し、助言や情報を頂いている。	町の担当課に直接出向き、運営推進会議の報告や行事に関する説明、要介護認定申請等の助言や指導を得、相談にも気軽に対応していただいている。町主催の研修会にも職員は積極的に参加し、協力関係が出来ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、職員の理解を深めるとともに、その都度身体拘束について検討会議を行い、身体拘束のない対応の強化を目指している。現在、身体拘束は行っていない。	身体を拘束しない「適正化委員会」は運営推進会議と一緒にいき、運営推進会議の委員が適正化委員にもなっている。職員会議の中で身体拘束が無い事を確認し、運営推進会議にも報告している。スピーチロックに関しては、職員間で注意をし合っているが、利用者に危険が伴うような場面では、言葉が強くなったりすることもあり、全職員で確認をしながら改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、例をだしながら意見交換をし、職員の理解を深めている。さらに、開けた環境を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、学ぶ機会を設けて、必要性があれば、関係者と話し合いながら活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に文章を含み説明を行い、不安や疑問点があれば、その都度説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて意見交換していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響でできなかった。だが、電話や面会時に意見を頂いた際は、運営などに意見を反映するようにしている。	利用者の日頃の様子、行事の様子を写真に収め、2か月に1回発行の「いこい通信」、法人で毎月発行の「いこいかわら版」を通し意見をいただいたり、面会に見えた際に伺って運営に反映している。家族との面会を考慮し、法人全体でスマートフォンによるテレビ電話を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営などに反映させている。その他にも、都度意見や提案に耳を傾けている。	職員会議や日々の業務の中で、いろいろな要望、意見や提案が活発に出され、配膳の工夫などが具体化されている。年2回個人面談を行い、職員の悩みや健康状態、運営に対する率直な意見を聞く機会を設けている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、管理者より職員全員に関して、報告を受けている。他にも、その都度、管理者や職員より話を聞く機会を設け、職員が働きやすく、やりがいを持って就労できるように、環境整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量などに合わせ、内部研修や外部研修に参加の機会を設け、職員一人ひとりがケアの向上できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議やセミナー、研修などに参加することで、自施設以外の同業者と交流する機会を設け、情報交換し、自施設のサービスの質の向上などに活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の調査時などで、本人の思いや要望・不安に思っていることなどを傾聴・確認し、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の調査時などで、家族の思いや要望・不安に思っていることなど傾聴・確認しながら、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等、必要とあれば関係者等などの情報を提供していただき、本人・家族とサービス内容を確認しながら支援内容を見極めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を続けながら、ご本人様が何が出来るかを探求し、見極め、他の利用者や職員と一緒にお手伝いをして頂くことで、お互いの信頼関係を築いている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態など、面会時や電話、写真などでお知らせしながら、状態変化時などの対応など、職員・家族と共に協力しながら対応し、お互いに支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の気持ちを大事にするよう心掛け、特に外出や外泊、面会などの制限は設けていないが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、本人・家族の要望をかなえることは難しくなっている。	コロナ禍以前は、家族や地域の方々、たくさんのボランティアが来訪し、馴染みの関係が出来ていたが、現在は家族以外の面会をお断りしており、多くの方々との関係維持が難しくなっている。法人の関係者が2カ月に1回理髪に見えたり、また保険会社のボランティアが事業所の窓拭きに来てくれる等、今出来るだけの繋がり確保に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて、共同生活を行っていくうえで、お互いを尊重し、助け合えるように、職員が間に入り、レク活動や家事活動を行っている。利用者同士のトラブルが発生した際も、職員が間に入り、楽しく共同生活が継続できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した際も、必要に応じてご本人・家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族と話をしながら、思いを汲み取り、関係者間で協力しながらなるべく実現できるように心がけている。また、意思疎通が困難な場合は、家族に生活歴などを聞いたり、本人の表情や仕草から意思をくみ取るようにしている。	自分の意向を話せる人が多く、困難な人に対しては、行動や表情、しぐさを見ながら思いを汲み取っている。行事の際に、お酒が飲みたい等の要望にはノンアルコール飲料を提供し、出来る限りの対応に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、関係機関からの情報や、会話の中から、生活歴や生活環境、馴染みのものなどを知り、本人が不安なく施設で生活していけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行うと共に、普段と違う様子などあれば、口頭や、日誌などで情報共有し、状態変化時など、迅速に対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を把握しながら、利用者や家族の意向も確認し、職員会議などで、ケアに関する意見を求めながら、その時の利用者の現状に即した介護計画を制作している。	入居時に生活歴と本人の様子を見てプランを作成し、その後モニタリングを行い、職員会議での協議を経たうえで、リーダーやサブリーダーからの意見と医療関係者の見解も参考にして、計画作成担当者が現状に即したプランを作成している。変化がなければ、6か月毎に見直しをしている。プランに沿っての支援の受け止めに職員間ばらつきが見られることもあり、改善していきたいとしている。	利用者を支援して行く上で、ケアプランは全職員が共通の理解と認識を持っていることが大切であり不可欠です。若手の人材育成を兼ね、全職員が共通の認識のもとでの支援実践に向け、取り組まれることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケアの記録を行い、その都度問題点など、職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況により、お互いに相談を重ねながら、柔軟な対応をするように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で計画し、行事を行うことで、地域との交流が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約の際、本人・家族より意向を確認し、相談をしながら、適切な医療が受けれるように、主治医と連携しながら支援している。	利用者全員がかかりつけ医を継続しており、訪問診療も3カ所から月1,2回来てもらっている。通院は家族にお願いすることが多いが、その際は日頃の状態、体調に関わる数値などを記載した書面を渡している。診察結果については家族から伺うが、医師から電話をいただくこともあり、連携が築かれている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度、訪問看護師来所持や電話にて、利用者の個々の状態を報告・相談し、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の情報提供を速やかに行い、入院中も病院関係者と情報交換や相談などを行い、安心して治療に専念できるようにしている。又、退院時カンファレンスに参加し、退院後も安心して施設で過ごして頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期を迎えた際の対応について説明しており、都度、意見を伺い、方向性について確認・話し合いをしている。	入居時の重要事項説明書には看取りの実施とあるが、今までに看取りの経験はない。利用者の状態が変化し重篤になった時には、家族の意向を伺い、病院を選択する等、家族と医療関係者で話し合いをし、今後に向けての方向性について確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。又、法人としてAEDを設置し、定期的に救急救命について講習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中想定と夜間想定避難訓練を行っており、地域の方々にも協力を頂いている。その他にも、マニュアルの作成や、日々、災害時に備えるように備蓄の調整なども行っている。	年2回、総合訓練と夜間想定訓練を実施している。夜間想定訓練では、薄暮時に事業所内の照明を消して行い、暗い中での避難の課題を知ることが出来たとしている。見守りや誘導等で地域の方々との連携や協力体制の必要性を改めて感じ、継続して関係性の保持に努めている。また、事業所は法人内他施設の避難指定場所としての訓練も積んでいる。備蓄品や物として、4、5日分の食糧と飲料水、半月分の必需品を保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	緊急時の対応マニュアルを作成している。又、法人としてAEDを設置し、定期的に救急救命について講習会を行っている。	居室への入室の際には、ノックや声掛けをしてからの入室に心掛けている。排泄支援の際には、さりげない言葉掛けをし、難聴の利用者にはジェスチャーで誘導するなど、プライバシーに配慮し、尊厳を守ることに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年2回、日中想定と夜間想定避難訓練を行っており、地域の方々にも協力を頂いている。その他にも、マニュアルの作成や、日々、災害時に備えるように備蓄の調整なども行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の身体状況や気持ちなど、一人ひとりの状態や思いを大切にしながら、なるべく希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人一人ひとりが馴染んで着ていた物や好みを本人・家族に聞いたりしながら、身だしなみに努めている。又、季節に合わせた服装を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人・家族に嗜好を伺ったり、昔からなじみのある献立や季節の行事食など、献立に工夫している。又、一緒に作ったり、片付けを行っている。	献立は、法人の栄養士が以前立てた物を参考に職員が立て、調理をしている。朝と昼は職員の調理による食事を提供し、夜は委託業者の食品提供となっている。利用者の好みに合わせ、白玉団子、あずきパットやお刺身も提供し、行事食は季節観の感じ取れる献立とし喜ばれている。利用者は大根や人参の皮むき、茶碗洗い、片づけ等を手伝い、一緒に楽しみながらの食事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通しての食事量や水分量を確認し、その人にあった食事形態・禁食なども把握しながら提供している。毎月体重測定での確認や主治医に栄養状態に関しても助言を頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に合わせた口腔ケアの支援を行っている。声掛け・見守り・一部介助など。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により、個々の排泄パターンの把握や本人の表情や仕草などで声をかけ、トイレでの排泄や排せつの自立に向けた支援を行っている。	一日の排泄チェック表をもとにパターンを掴み、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘で薬を服用している人もいて、経過観察をしながら支援に努めている。日中だけでなく夜間も布パンツ利用者が4名、リハビリパンツ利用者14名で、入居後、失禁が改善された利用者も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、本人及び排泄記録により排便状況を確認し、乳飲料の提供や運動、水分補給などで便秘解消に努めている。又、主治医に相談し、薬による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や既往歴にも配慮しながら、出来るだけその人がゆっくり楽しく入れるように工夫している。	週2回の入浴を心掛け、体調や気分を考慮し入浴を勧めている。嫌がる人には、様子をみながら何度か声掛けをし、気分が乗って来た時に入っていたらいて。希望により入浴剤を入れながら、気分転換を図る工夫をしている。着替えは、お手伝い程度の対応としている。入浴は利用者の憩いの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、就寝時間や日中の午睡、その他の休息時間を設け、安心して気持ちよく施設で過ごすよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師、薬の処方箋にて薬の内容や副作用など把握するよう努めている。又、利用者の状態や症状の変化など、確認し、主治医と連携できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割を持つことで施設に馴染むよう、生活歴や本人の出来ることを捜し、家事活動など行ってもらっている。又、本人のやりたいことなど聞きだし、日々の生活やレク活動、行事中に取り入れるようにしている。		

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿うように、家族と相談しながら支援している。又、行事やレクなどにも、利用者の希望を取り入れてドライブや散歩などの支援を行うようにしている。	コロナ禍で家族との外出も出来ない現状にあり、法人のワゴン車を借り、感染予防に努めながら花見や毛越寺のあやめ見物、胆沢ダム紅葉を見に出掛け、利用者一人一人の希望に添えるよう努めている。戸外に出た事で事業所内と違った表情も見られ、中には誰とも会話をしなかった利用者が、打ち解けて話をする姿も見られた。様子は写真に撮り、家族にお知らせしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて個別に現金を預かり、個別出納帳にて管理している。日用品やおやつなど、利用者・家族が必要とする場合はそれから購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・職員で共同で清掃を行い、共有空間であることの意識を高め、温度や湿度管理、こまめな換気などを行い、利用者が過ごしやすい環境になるよう配慮している。又、季節ごと壁画などを利用者で制作し、季節感を取り入れながら、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用スペースの温度は、床暖、エアコン、加湿器等で整えられており、広い空間には食堂のテーブルと椅子、ソファが置かれ、利用者は思い々の場所で寛いでいる。利用者職員と一緒に掃除をし、清潔の保持に努めている。壁面にはそれぞれの棟の特性を生かし、季節毎に利用者職員と一緒に製作した貼り絵や折り紙を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に、所々に椅子やソファを設置し、一人、又は、利用者同士語らえる場所を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族、職員と相談しながら、本人の使い慣れた物や家族の写真など、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	洗面ユニット、クローゼット、ベッド、テーブルと椅子などが備え付けられ、エアコン、換気扇で室温管理がなされている。寝具類や衣装ケース、テレビ等、利用者それぞれの使い馴染んだ物が持ち込まれ、家族の写真を貼る等、居心地よく過ごせるよう支援をしている。利用者からは「ここがいい」の声も聞かれる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホーム いこいの杜(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーになっており、共有スペースのトイレや壁には手すりを設置し、又、居室前やトイレなど、写真や名札、目印などで分かりやすいように表示し、一人ひとりが自立した生活を送れるように支援・工夫している。		